

## 石井さん！県知事はあなたですよ。

113

朝夕冷え込む時期になった。今年も一カ月足らず、風邪に注意のこと。

## 一、ロコミ商法

①不況が五年以上続いて、上場企業でも深刻さを増し、赤字決算になった企業も目立つ。景気浮揚策が緊急の課題。

②どんな時代でも、はやる店はある。媒体は、コマーション、チラシなどをはじめインターネットに至るまで多様だが、やはりロコミが、最も確実かつ安価な手段である。即効性はないが、ロコミの力は侮れない。

③時代は変わっても、いい商品を安く売り、良心的な商いをしている所は元気がよい。ロコミによる世の中の評判は、意外的を得ている場合が多いのも事実。

## 二、健康即ち幸福

①身近な人が、病魔に犯されて入院中のため、健康の大切さを再確認している。不摂生が原因で病気になる場合は、自業自得。自己責任の問題に帰着する。

②しかし、自分では、どうにもならない病気もある。生活態度を改善するとか、事前に予防せよ、と云われても有効手段はなさそうだ。

③早期発見・早期治療が大切なようだ。こまめに、健康診断や人間ドックを行なって早く発見することが肝要。足腰が立たなくなつて入院したのでは、手遅れ。常に、信頼出来る医師と、隠し事をせず、相談することが大切だろう。

## 三、山崩れ防止

①深田久弥の「日本百名山」の大山や富士山で、山肌が崩れている。長く続けば山の形が変わるのではないかと、心配される。崩落防止策は講じられているが、早期に実効性のある手段を望む。

②考古学では、壊れ易い遺物を固めている化学物質がある。あのような凝固剤を大量に使用することも、一策かも知れない。

③景観はよいのだが、鷲羽山、王子ヶ岳辺りでは、岩が落ちそうで、現実に落下すれば、大事故だろう。予防策は取られているようだが…。

## 四、重圧を跳ね返せ

①先日、岡山県知事に石井正弘氏が就任した。二十一世紀の岡山県を左右する重要な時期である。岡山県の中四国におけるロケーションは、素晴らしいものがあり、ポテンシャルも大きい。どのように料理し、味付けするかは、料理人すなわち県知事の手腕次第。

②多くの人の協力で当選したことは間違いないが、応援し、投票した人も、現実に見返りを期待しているわけではない。知事の将来プランに期待を寄せている。自分の信ずる所を、強力に実行すればよい。

③石井知事は、県民との間に介在する県庁職員を指揮監督し、県民のための行政サービスをこなして欲しい。口は悪くても誠意のあるブレインを多く携えて、強力なリーダーシップにより、岡山県の将来の夢を語り、県民に実践の指針を示せば、県民は必ずや協力します。

21世紀の岡山県を託す

これまでの人生で、一番清々しい朝

112

オリックスが一致団結して、悲願の日本一を達成。被災地神戸を勇気づけた。

一、デッドヒートは鼻の差

①注目の岡山県知事選は、石井正弘氏が初当選した。江田五月氏とは僅差。開票率99%で当確が出た。

②私は、選挙前から石井氏が当選すると公言していた。江田氏の知名度は抜群で、絶対に優勢だった。しかし、自民党には衆議院選大勝の「勢い」及び、ゴール目指しての集中力と迫力が追い抜いた。

③最後の直線コースで追い込む、勝馬のレース運びとダブって見えた。まさに「人生の縮図」である。この度の県知事選は、我々の「人生劇場」においても、大いに参考になる出来事だった。

④企業でも、しかり。社長はじめ従業員全員が、心を一にして頑張れば、目的を達成出来る可能性が、大きいことを示唆した。また、受験勉強でも一所懸命に全力を投入すれば、短期決戦で合格が出来ることを教えてくれた。

二、あたたかい心の持ち主

①石井氏と話す機会があった。官僚出身ではあるが、非常に気さくな人で、好感度は高い人柄。この人が県知事になれば、岡山県もさらに良くなると思った。

②岡山市政津の生まれ。西大寺管内の水田の多い農村地域。農業の傍ら、山陽新聞の販売所を経営してきた。稲刈りや新聞配

達も手伝った経験があり、ごくありふれた庶民の家庭出身の方である。

③人は、育ちによって考え方や生活態度が変わって来る。私を含む自営業者の倅は、朝早くから夜遅くまで働く事が、当たり前と考えて育つ。そういう人格形成をされた優秀な人材が、岡山に骨を埋める覚悟で、岡山に帰って来てくれたのだから、県民も協力を惜しまないでバックアップしよう。

④二世、三世議員が多い政治家集団にあって、政治とはまったく縁のない自営業者の子息から県知事が選出されたことは、政治家を志す若い人に、政治家の血統でなければ、政治家になるのは無理という既成概念を打破して、勇気と希望を与えたことは評価に価する。

三、経営者の感覚で

①県は財政が逼迫しているようだが、経営者の立場から見れば、借金があっても、事業を適切に拡大させ、県民全体に利益を還元するような、努力をして欲しい。

②借金は元本の多寡より、利息の支払に関心を置いたらどうか。利率を一層低くするような、交渉に尽力すべきだろう。実質的な金利負担を少なくすることが、事業推進には必要だから。

③県外から人口、資本などの流入を促し、経済力を高める施策を実行するために、積極的な先行投資をして欲しい。地方自治体は、一種の経済活動を行っているのだから、企業経営と相似しており、経営手腕が要求される。

## 保有税の抜本見直しが必要

⑪

朝夕は、ぐっと冷え込むようになった。今年も、綺麗に紅葉するようだ。

## 一、表町商店街の活性化

①先般、夜半に火事のサイレンが鳴り響き、きな臭い匂いが立ちこめ、街が霞んで見える状態が、1km以上離れた風下の大学町でも確認された。表町アーケード商店街の中央部南寄りの火事だった。最近、商店街に空店舗が目立っていたから、何か起こりはしないかと思っていた矢先であった。衰退に拍車がかからなければよいがと心配する。

②そこで、考えられるのは、県か市が焼けた跡地を買取って中心商業地活性化のための拠点として、新たに公共施設を建築し、各種情報発信基地、買物客の休憩所、ボランティア活動の拠点、無料相談コーナー、サークル活動・各地物産販売などの提供場所として、とにかく、人が集まる憩いの場を創出することだ。

③「禍変じて、幸いとなる」という諺もある如く、被災者には気の毒だけれども、敷地を一体化して、全体を一画地として利用すれば、まとまった敷地になるため有効活用出来る。地元からの要望もさることながら、役所も率先して、本気で取り組むべきだ。

## 二、土地税制の見直し

①衆議院選挙後に本格化する、来年度の

税制改正論議において、土地税制が重点的な焦点になる見直しだ。

②バブル期に地価抑制の為に、強引とも思われる、ありとあらゆる税制と土地政策を行った。バブルがはじけて釣るべ落としの如く、地価は歯止めがかからない現状である。にもかかわらず、バブル期の税制は、ほとんどそのままになっている。一度決めた税制は、改廃しないのが官庁の論理のようであるが、こういうことでは、時代の動きに即応出来ないことは、明らかである。

③都市中心部の過疎化及び生産工場などの海外脱出による産業の空洞化が、経済力の減退と商業地や工業地の地価下落をもたらし拍車をかけた。景気回復の遅れも手伝って、地価下落の傾向は、まだ続く見通しが濃厚なようだ。

④相続税と固定資産税については、裁判所で争われている案件が多く、原告勝訴即ち納税者の主張が認められるケースが目立つ。通達課税の問題や評価額の逆転現象など、納税者を納得させることができない場合が多数生じている、などの問題点が浮き彫りになっている。

⑤相続税や固定資産税が、支払能力を越えて、はじめに支払う意志があっても払いきれない状態が生じている。売却もままならず、物納も全ては認めてくれない。そうになると、納税者は、どうしたらよいのか分からなくなる。地価下落は無用の混乱を生じさせる結果を招いた。税制を含む土地政策を根本から見直す時期が来ている。

税金の不正還付疑惑

追うより、守る方が難しい！

110

秋の訪れが、例年より早いそうだ。紅葉をどこに見に行かれますか？。

否定した。

一、暴力団排除

①県警を始め、暴力団締め出しに市民が立ち上がっている。反面、追い詰められ、「兵糧攻め」にあつて、家の取壊しやビルの新築があれば、いいがかりをつける等々、周辺住民を困らせている組事務所もある。

②報道によれば、最近、マンション建設の地鎮祭に押しかけ、多額なお金を脅し取った事件があつた。大手が請け負っているのに、何故、易々と出すのだろう。社会的信頼を裏切る背信行為かつ暴力を助長する反社会的行為。

③某デパートは暴力団に信じられないような多額の金銭を与えて、利用していた。体面を重んじる余り、表面化されるのを極端に恐れて、金を出す傾向がある。嫌がらせや金を要求する時は、警察に相談すること。お礼参りを恐れず、勇気を出して積極的な協力を惜しまないことだ。

④21世紀の岡山県の命運を賭けた重要な県知事選挙が迫っている。公約や政策に劣らず、リーダーになる人にとって人柄は、重要な選択のファクターである。

⑤頭脳明晰で、裁判官・弁護士・国会議員と、華麗な職歴を誇るひとかどの人物。当然、法律に精通しているのだから、税金の還付金を受け取ることが合法か違法かは認識していたはず。不正でないならば、正々堂々と争うことを勧める。

⑥悪質な中傷だが「無視」するという主張は通用しない。通常の社会では、無視という行為も許されるが、県知事に当選するが、然性が高い人だから、県民に潔癖をアピールしなければならぬ。

二、カラ献金か？

①写真週刊誌「フォーカス」の十月二日

⑦カラ献金でないことの立証は金の流れ、

号に、『岡山県知事選の「江田五月」にインチキ所得申告疑惑―秘書の歳費も「ピンハネ」という大見出しの記事が載った。これを受けて、江田五月氏は記者会見し、『疑惑の事実は今くない、悪質な誹謗中傷だ』と

即ち、銀行の通帳等により出入状態を説明すればよい。難しいことはない。いわれの無い嫌疑を、掛けられるのはたまらないだろう。

## 岡山県庁は操車場跡地へ

97

西大寺会陽、お水取りと続く。一歩ずつ春へ近づいて行く。

## 一、推敲

①作家の司馬遼太郎氏が急逝した。絶筆をみると、原稿用紙に何度も数色のペンで書き直され、推敲を繰り返している。人柄が偲ばれる。

②ワープロで原稿を書く人も多い。私は、ワープロの画面だけでは近視眼的になり全体が把握しにくいいため、手書きして別途ワープロで文章化している。

③月二回のペースで「不動産を考える」を書かせていただいて、五年になる。時間に追われる時もあるが、書くのが特別苦にはならない。皆様に読んでいただき恥を掻かないために、推敲し、かつ書き直して字数を揃えている。

## 二、告訴・告発を

①住専問題で税務調査が着手。いよいよ動き出したものの、第三者（税務署）が調査を始めたにすぎない。貸し手の住専が被害届を出さない限り、検察・警察は動きづらないのではないかな。

②前々回にも書いたが、岡山県警は三年程前、借り手の三幸実業（破産）に対して家宅捜索及び逮捕を繰り返し行った。不正事実を摘示して全国の関与金融機関等に被害届を出してもらおうように説得行脚をしたが、告訴・告発に応じた金融機関等皆無だった。もし、あの時に立件して社会問題

になっていれば、今日的大問題にはならずに済んだのではないかと悔やまれる。

③公務員や公共性の高い金融機関等は不正があると思われる時は、告訴・告発をすべき義務があると思う。内密にする態度が、相手につけ込むすきを与えるのだ。

## 三、頭を冷して考えよう！

①操車場跡地にサッカー場を造るというのはバブル期の発想。数百億円の投下資本と維持管理費が年間一億円かかり、永年に渡って重荷になる。Jリーグは下火傾向だ。中庄にあるマスカット球場において、サッカーの試合が出来る。過去に某放送局が主催して試合を行ったところ、入場者が少なく赤字になりもうコリゴリ。

②年間、せいぜい十日間程のために莫大な市税を注ぎ込むことは無謀だ。事情通によれば、安宅市長がどうしてもと言って聞かないのだそう。市長の道楽とのこと。未だ、議会に提案をしていない段階だから取り止めは簡単だ。議会に付託されてもそんなりは通らないだろう。事業として魅力に欠けるから。

③岡山県庁が移転することを勧める。県庁の部屋は狭い。一人が利用できる机のスペースは僅かだ。高い競争率の試験に合格した秀才軍団が良い仕事をするためには、職場環境を良くする必要がある。ゆつたりしたオフィスでなければ、良いアイデアは生まれないと考える。移転した後は岡山地方振興局等が入れば良い。

## 住民参加の街づくりを

95

正月早々に、郷土出身の橋本首相が誕生した。喜び一入の良い年のスタート。

## 一、住専問題

①住宅金融専門会社の不良債権処理に多額の公的資金を投入するのは是非を巡って、国会の論争が熾烈になるだろう。住専の情報開示や、検察及び警察に専従班において本格的に事後処理に取り組む姿勢が打ち出されている。遅蒔きながらしっかりやって欲しいものだ。

②真剣にやるといふポーズのようにも感じられ、いままらという気がしないわけでもない。すでに(二三年前)、優秀な岡山県警は三幸実業(破産)にまつわる事件を摘発した。当該事件は正に、住専の絡んだ一例である。懸命の捜査にも関わらず、不正貸付などについて納得のいく説明がなされなかった根本的な原因はどこにあるのか？

③金融機関関係者によると「金融機関等が被害届を出しても得になることは何もない」のだそうだ。言わんとする意味内容をよく理解することが出来ないが、そういうものらしい。いずれにせよ、早く取り組まないで公訴の時効が成立し、後の祭になりますよ！

## 二、ナビゲーション

①社会や会社などいろいろな人間関係に置かれている自分がどのような立場にあるのかを客観的に理解することは必要なこと

だ。飛び跳ねた鯉が池の外にはみ出て日干しにならないためにも……。

②正月は、箱根駅伝で中央大学が32年ぶりに総合優勝したのを喜びながら考えた。私はすでに人生の折り返し地点を過ぎた。先頭で走っている人は視野の中にはいない。反面、すでにリタイアした者もいる。しかし、本当の人生レースはこれからだと思っ。

③将棋の升田名人は、「辿り来て、未だ山麓」と云った。私など辿り来るまでに至らず、未だ山登りの最中だ。起業家精神を発揮し、好奇心旺盛に自分の置かれている現在の立場を確認しつつ前進したいものだ。

## 三、まちづくり

①阪神大震災の復興街づくりが難航しているが、今年は動き出すだろう。行政が呈示した案に対して地元住民から異議が出され、住民の意向を尊重して練り直し中という地区もある。本来の街づくりが模索され出した元年である。

②従来は行政サイドで御膳立てして地元におろす方法が主流だったが、住民意識も高まり計画段階から住民参加のワークショップ方式が取り入れられつつある。

③これからは、住民が参画し行政と十分論議した上で決定・実施されるような街づくりが主流を占めるようになる。私の「街づくり」総合研究所は行政と住民とをコーディネートしながら、ボランティアでなくビジネスとして責任の所在を明確にしなければならぬ。